

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成30年1月25日(2018.1.25)

【公開番号】特開2016-108177(P2016-108177A)

【公開日】平成28年6月20日(2016.6.20)

【年通号数】公開・登録公報2016-037

【出願番号】特願2014-246468(P2014-246468)

【国際特許分類】

C 0 1 F 7/00 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 K 9/04 (2006.01)

【F I】

C 0 1 F 7/00 C

C 0 8 L 101/00

C 0 8 K 9/04

【手続補正書】

【提出日】平成29年11月29日(2017.11.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

本発明は下記の発明を包含する。

(1) 下記 (a) の化学式で表わされ、フーリエ変換 (FT-IR) で求められる水酸基の伸縮振動周波数が 3430cm^{-1} 以上であり、下記 (b) ~ (d) の粒度特性を満足することを特徴とするハイドロタルサイト類化合物。

(a) $\text{Mg}_{1-x}\text{Al}_x(\text{OH})_2\text{A}^{n-}_{x/n} \cdot m\text{H}_2\text{O}$

(b) $5 \leq \text{Sw} \leq 20$ (m^2/g)

(c) $0.5 \leq \text{Dp}_{50} \leq 2$ (μm)

(d) $\text{D}_{\text{Max}} \leq 10.09$ (μm)

ただし、(a) の式中、 A^{n-} は n 価のアニオンを示し、 x は $0 \leq x \leq 0.5$ 、 m は $0 \leq m < 1$ である。

Sw : 窒素吸着法で測定した BET 比表面積 (m^2/g)、

Dp_{50} : レーザー回折散乱式粒度分布計で測定したハイドロタルサイト類化合物の 50% 平均粒子径 (μm)、

D_{Max} : レーザー回折散乱式粒度分布計で測定したハイドロタルサイト類化合物の最大粒子径 (μm)。

(2) 脂肪酸、脂環族カルボン酸、芳香族カルボン酸、樹脂酸、それらの金属塩、それらのエステルから選択される少なくとも 1 種の表面処理剤で表面処理されていることを特徴とする上記のハイドロタルサイト類化合物。

(3) 上記 (1) 又は (2) のハイドロタルサイト類化合物と樹脂を含有してなることを特徴とする樹脂組成物。

(4) 樹脂が塩化ビニル樹脂であることを特徴とする上記 (3) の樹脂組成物。

(5) 上記 (3) の樹脂組成物からなることを特徴とする成形体。

(6) 上記 (4) の樹脂組成物からなることを特徴とする成形体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 7 】

本発明のハイドロタルサイト類化合物は、下記 (a) の化学式で表わされ、フーリエ変換 (FT-IR) で求められる水酸基の伸縮振動周波数が 3430cm^{-1} 以上であり、下記 (b) ~ (d) の粒度特性を満足することを特徴とする。

(a) $\text{Mg}_{1-x}\text{Al}_x(\text{OH})_2\text{A}^{n-}_{x/n} \cdot m\text{H}_2\text{O}$

(b) $5 \leq \text{Sw} \leq 20$ (m^2/g)

(c) $0.5 \leq \text{Dp}_{50} \leq 2$ (μm)

(d) $\text{D}_{\text{Max}} \leq 10.09$ (μm)

ただし、式中、 A^{n-} は n 価のアニオンを示し、 x は $0 \leq x \leq 0.5$ 、 m は $0 \leq m < 1$ である。

Sw：窒素吸着法で測定した BET 比表面積 (m^2/g)、

Dp_{50} ：レーザー回折散乱式粒度分布計で測定したハイドロタルサイト類化合物の 50% 平均粒子径 (μm)、

D_{Max} ：レーザー回折散乱式粒度分布計で測定したハイドロタルサイト類化合物の最大粒子径 (μm)。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 全文

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記 (a) の化学式で表わされ、フーリエ変換 (FT-IR) で求められる水酸基の伸縮振動周波数が 3430cm^{-1} 以上であり、下記 (b) ~ (d) の粒度特性を満足することを特徴とするハイドロタルサイト類化合物。

(a) $\text{Mg}_{1-x}\text{Al}_x(\text{OH})_2\text{A}^{n-}_{x/n} \cdot m\text{H}_2\text{O}$

(b) $5 \leq \text{Sw} \leq 20$ (m^2/g)

(c) $0.5 \leq \text{Dp}_{50} \leq 2$ (μm)

(d) $\text{D}_{\text{Max}} \leq 10.09$ (μm)

ただし、(a) の式中、 A^{n-} は n 価のアニオンを示し、 x は $0 \leq x \leq 0.5$ 、 m は $0 \leq m < 1$ である。

Sw：窒素吸着法で測定した BET 比表面積 (m^2/g)、

Dp_{50} ：レーザー回折散乱式粒度分布計で測定したハイドロタルサイト類化合物の 50% 平均粒子径 (μm)、

D_{Max} ：レーザー回折散乱式粒度分布計で測定したハイドロタルサイト類化合物の最大粒子径 (μm)。

【請求項 2】

脂肪酸、脂環族カルボン酸、芳香族カルボン酸、樹脂酸、それらの金属塩、それらのエステルから選択される少なくとも 1 種の表面処理剤で表面処理されていることを特徴とする請求項 1 記載のハイドロタルサイト類化合物。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 記載のハイドロタルサイト類化合物と樹脂を含有してなることを特徴とする樹脂組成物。

【請求項 4】

樹脂が塩化ビニル樹脂であることを特徴とする請求項 3 記載の樹脂組成物。

【請求項 5】

請求項 3 に記載の樹脂組成物からなることを特徴とする成形体。

【請求項 6】

請求項 4 に記載の樹脂組成物からなることを特徴とする成形体。